歴 史 を 感 じ て

夜須⑨松延・石櫃周辺

この資料は、「筑前町の歴史」、「夜須の民話と伝説」、インターネット等を引用し作成しています。

松延は、松延本村区、松延新道区があります。松延、石櫃の神社、遺跡等を紹介します。

これからの時代、健康づくりが大切です。歴史を感じながら散歩を楽しみましょう。コロナに負けるな！

松延池からの風景

松延（松延本村区、松延新道区）

神社	天満宮
遺跡	梨子木遺跡
	三国手遺跡

筑前町古代人の動物の狩り
（梨子木遺跡：筑前町史より）

松延で発掘調査が行われた梨子木（なしのき）遺跡の報告書（文献一九九九）から、落し穴の図と写真を抜粋し紹介をします。落し穴は、総計四〇基検出されている。イノシシ・シカなどの哺乳類を捕獲するためと考えられている。穴は、一個のものと二個の連穴のものがある。長径一・五㍍前後、短径一㍍前後、深さ一㍍前後で、穴底には、杭（くい）が立てられていたと思われる穴（径二〇～三〇cm、深さ四〇～六〇cm）が掘られている。獣がこの穴に落ちると、杭と穴壁に挟まれて自由に身動きが出来ず、捕獲されたと考えられている。

石櫃

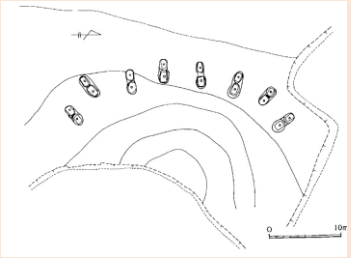
神社	石櫃天満宮
その他	追分石

追分石

石櫃は、甘木へ往還で、旧筑後国の松崎への分岐点でもある。追分石は江戸時代の初め頃の道標で、「右 肥後 薩摩道」(天下道)、「左 豊後 秋月 日田 甘木道」としるされている。

石櫃は、当時山家宿の下宿として賑わい、道標は山家宿の問屋、武作（たけさく）が世話人となって設置したとされる。

梨子木遺跡　落し穴の図



★地名の由来や伝承等ご存じの方は、下記までご連絡ください。

お問合せ：筑前町社会福祉協議会
（筑前町篠隈373コスモスプラザ福祉館）
ＴＥＬ：0946-42-4555（担当 時津、石丸）
Eメール：chikuzenshakyo@tea.ocn.ne.jp

松延（松延本村、松延新道）石櫃

石櫃

石櫃天満宮

追分石

松延

天満宮

天満宮

所在地　朝倉郡筑前町松延字三十六

祭神は高御産巣日神・菅原神・埴安命。

祭神の埴安命は同字無格社四神社として祭祀ありしを、明治四十四（一九一一）年五月十八日に合併するとある。

由緒は室町時代ころの建立と伝えられ、古来から農業神の産土神信仰に神功皇后伝説である「熊襲征伐の時、天神地祇を祀ったところ高御産巣日神の御落が厘となって現れて大松の梢にとまった・・・」という縁起から江戸期までは「生厘天神社」と称していた。

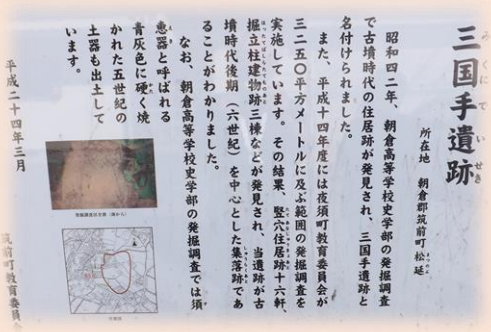
平成二六年三月　筑前町教育委員会

松延本村公民館

松延新道公民館

梨子木遺跡

三国手遺跡



三国手遺跡

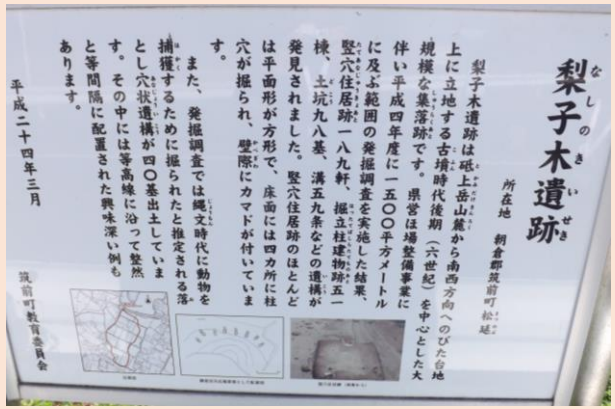
所在地　朝倉郡筑前町松延

昭和四二年、朝倉高等学校史学部の発掘調査で古墳時代の住居跡が発見され、三国手遺跡と名付けられました。

また、平成十四年度には夜須町教育委員会が三二五〇平方メートルに及ぶ範囲の発掘調査を実施しています。その結果、竪穴住居跡十六軒、掘立柱建物跡三棟などが発見され、当遺跡が古墳時代後期（六世紀）を中心とした集落跡であることがわかりました。

なお、朝倉高等学校史学部の発掘調査では須恵器と呼ばれる青灰色に硬く焼かれた五世紀の土器も出土しています。

平成二十四年三月　筑前町教育委員会



梨子木遺跡

所在地　朝倉郡筑前町松延

梨子木遺跡は砥上岳山麓から南西方向へのびた台地上に立地する古墳時代後期（六世紀）を中心とした大規模な集落跡です。県営ほ場整備事業に伴い平成四年度に一五〇〇平方メートルに及ぶ範囲の発掘調査を実施した結果、竪穴住居跡一八九軒、掘立柱建物跡五一棟、土坑九八基、溝五九条などの遺構が発見されました。竪穴住居跡のほとんどは平面形が方形で、床面には四カ所に柱穴が掘られ、壁際にカマドが付いています。

また、発掘調査では縄文時代に動物を捕獲するために掘られたと推定される落とし穴状遺構が四〇基出土しています。その中には等高線に沿って整然と等間隔に配置された興味深い例もあります。

平成二十四年三月　筑前町教育委員会